

# 長生稲作情報 第3報

## (2021年6月18日発行)

長生農業事務所 改良普及課  
電話 0475-22-1771

### ◎長生地域の生育状況

前回（5月31日）の調査日以降は、天候が安定し、気温は平年並か少し高く、日照時間も多く確保できました。今年は平年よりも移植が早い傾向にありましたが、「ふさおとめ」「ふさこがね」の幼穂形成期はほぼ平年並みとなりました。「コシヒカリ」「粒すけ」も、5月上旬までに移植したほ場では6月下旬までに幼穂形成期に到達する見込みです。

穂肥施用のポイントについては、別添の県版生育情報を参考にしてください。水管理のポイントは、幼穂を確認したら入水を開始し、出穂3週間前から出穂2週間後までは湛水管理を心掛けてください。用水が十分に確保できない場合は、天気予報を確認し、雨水を上手く活用してください。

表1 主要品種生育調査ほ施肥設計

品種	基肥 (kg/10a)					追肥	栽植密度 (株/m <sup>2</sup> )	植付 本数
	施用方法	現物	N (速効：緩効)	P	K	N		
ふさおとめ	全層	40	5.6 (5.6：0)	7.2	5.6	—	19.6	5.5
ふさこがね	側条	30	7.2 (2.0：5.2)	4.2	3.3	—	18.1	4.0
コシヒカリ	全層	40	5.6 (5.6：0)	7.2	5.6	—	18.1	4.7
粒すけ	側条	45	9.0 (4.0：5.0)	5.4	6.3	1.2	18.5	3.0

表2 主要品種生育調査結果 (調査日 おとめ・こがね：6/14、粒すけ：6/15、コシヒカリ：6/18)

品種	場所	年	移植日	葉令	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (SPAD)	幼穂形成期 (見込み)
ふさ おとめ	茂原市 (長尾)	2021	4/11	12.0	55	29.1	570.4	34.8	6/14
		参考値	4/15	10.1	53	35.8	607.1	36.8	6/11
		県平均	4/23	10.3	48	29.0	541.3	39.1	6/15
ふさ こがね	茂原市 (七渡)	2021	4/15	11.3	56	34.2	619.0	42.3	6/14
		参考値	4/17	10.0	57	34.0	577.0	44.0	6/13
		県平均	4/21	10.4	54	31.5	559.4	40.8	6/15
コシ ヒカリ	茂原市 (長尾)	2021	4/13	10.9	65	38.2	691.4	35.6	6/16
		参考値	4/15	11.0	67	39.0	659.0	38.0	6/17
		県平均	4/22	10.0	55	30.6	535.9	38.2	(6/21)
粒すけ	長生村 (信友)	2021	5/4	—	52	27.5	508.8	44.8	(6/28)
		県平均	5/3	—	47	30.9	505.7	43.0	—

※参考値は、同調査地点の「ふさおとめ」過去5か年、「ふさこがね」過去2か年、「コシヒカリ」過去3か年の平均値です。また、県平均は今年度の県内他調査地点の平均値です。

## ◎高温登熟障害の発生条件と軽減対策について

地球温暖化により、千葉県においても、平成27～30年の水稻の生育期間(3～8月)の平均気温は、平年値と比べ1.4℃高くなっています。水稻においても、登熟期間中の高温により玄米が白濁する高温登熟障害が発生しており、玄米の外観品質が低下しています。

出穂期後20日間の日平均気温が25.0～28.6℃の範囲では、「コシヒカリ」及び「ふさこがね」は平均気温が高くなるほど障害発生割合が増加します。一方、「ふさおとめ」は、「コシヒカリ」及び「ふさこがね」と比べて高温登熟障害の耐性に優れています。

高温登熟障害を軽減するためには、出穂期以降の葉色を落とさない管理をすることが有効です。一発肥料を使用している方でも、高温登熟障害の発生が予測され、かつ、出穂期の葉色が以下の目標値より低下すると予測される場合は、出穂期前7～5日に速効性肥料で窒素を1kg/10aを目安に施用してください。

表3 「コシヒカリ」「ふさこがね」の出穂期における葉色の目標値

品種	コシヒカリ	ふさこがね
出穂期目標	カラスケール：4.2以上 SPAD：34.4以上	カラスケール：4.5以上 SPAD：36.5以上
出穂期前7～5日前目標	カラスケール：4.4以上 SPAD：35.7以上	カラスケール：4.7以上 SPAD：38.2以上

## ◎水田周辺の雑草除去は出穂2週間前までに行いましょう！！

水田周辺にある雑草地は、カメムシ類の越冬地となる雑木林や藪から水田への移動経路となります。そのため、出穂2週間前までに畦畔や農道等の除草を徹底することは、カメムシ類の水田への侵入を抑制する効果があります。一方で、出穂期直前の除草は、雑草にいたカメムシ類を水田に追い出し、かえって被害を助長するため注意してください。

写真：長生管内で発生が多い斑点米カメムシ

クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ (Thin-edge bug) on a rice leaf.

